

【シラバスⅡ】令和8年度 評価規準

教科名 理科		科目名 生物基礎		
時期・単元	内容のまとめ	知識・技能	思考・判断・表現等	主体的に学習に取り組む態度
前期期末まで	生物の多様性と共通性 エネルギーと代謝 光合成と呼吸 遺伝情報と DNA	<ul style="list-style-type: none"> 生物の共通性と、同時に多様性があることを理解する。 ATP や酵素の役割を理解する。 光合成、呼吸の内容を理解する。 DNA の構造と、構造的特徴が遺伝情報を担う物質として機能することを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通性の由来、多様性の由来について説明できる。 ATP、酵素について代謝での役割を説明できる。 生命活動にとってのエネルギーが説明できる。 共通の分子を遺伝情報としているにも関わらず、多様な情報を保持しているしくみについて説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業、実験に主体的に取り組み、ディスカッションのときなど、積極的な発言が見られる。
後期中間まで	遺伝情報の複製と分配 遺伝情報の発現 体内環境の維持のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> アミノ酸配列によってタンパク質が決定し、その配列を指定することで DNA が遺伝子として機能することを理解する。 DNA がどのように分配されるか、細胞の分化の遺伝子発現のレベルでの考え方について理解する。 交感神経と副交感神経、ホルモンなどの作用や分泌機構について理解する。血糖濃度や体温などの恒常性、糖尿病の原因などを正しく理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> アミノ酸配列が塩基配列で保持されていることを考察し、DNA とタンパク質の関係を正しく表現できる。 体細胞分裂における DNA の複製と分配の周期の意味を説明できる。発現と分化の関係を説明できる。 自律神経系と内分泌系の働き方を比較し、調節機構を説明できる。血糖濃度の調節が自律神経系、内分泌系の両方によって行われていることを説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝情報の転写と翻訳について、図を見ながら意見交換ができる。 自律神経と内分泌系によって自身の体内環境が制御されていることに興味・関心を持つ。
学年末まで	体内での情報伝達と調節 免疫のはたらき	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境とその恒常性について理解する。 腎臓の構造と物質の移動について理解する。肝臓の持つ多様な機能について恒常性での役割のうえから理解する。 自然免疫と適応免疫のしくみとそれにはたらく細胞の役割を正確に理解する。免疫現象を利用した医療行為や以上によって起こる疾病について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 体液の違いと循環との関係を説明できる。 腎臓の構造と尿の生成、水分量の調節の関係について説明できる。肝臓の構造と3本の管の関係について図を用いて説明できる。 自然免疫における食作用、適応免疫の仕組みについて、図を用いて説明できる。食細胞の異物の認識の仕方とリンパ球の抗原の認識の仕方を比較して説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活における食物と体液に含まれる栄養分と水分の関係に興味・関心を持つ。 身近にある免疫の現象について、教科書の記述から導き出そうとする。
主な評価方法		定期テスト	定期テスト レポート(実験含む)	出席態度 行動観察(実験含む)
その他				